令 和 ８ 年 度
歯科衛生士科

1年次　後期
授業計画〈シラバス〉

〒770-0003
徳島市北田宮１丁目８番６５号
一般社団法人　徳島県歯科医師会
会立　徳島歯科学院専門学校

歯科衛生士科　講師紹介
1年　後期

専門分野	授業科目	単位数	時間・回数	所属・講師名	資格	臨床経験	ページ
基礎分野	科学的思考の基礎 化学	1	28時間 90分×14	元　高校教諭 吉田　光昭　先生			1,2
	人間と生活 外国語 歯科英語	1	28時間 90分×14	徳島歯科学院専門学校 教務室長　伊賀　弘起	歯科医師	有	3,4
	人間と生活 社会学	2	32時間 90分×16	四国大学　生活科学部　人間生活科学科 中岡　泰子　先生			5,6
専門基礎分野	人体の構造と機能 栄養学	1	32時間 90分×16	徳島大学大学院医歯薬学研究部　生体栄養学分野 林　由都　先生			7,8
	歯・口腔の構造と機能 口腔生理学	1	16時間 90分×4	徳島大学大学院社会産業理工学研究部　食料科学分野 赤松　徹也　先生			9,10
			90分×4	徳島大学大学院医歯薬学研究部　口腔生理学分野 長谷川　敬展　先生			
	歯・口腔の構造と機能 組織発生学	1	16時間 90分×8	徳島大学名誉教授 吉田　秀夫　先生	歯科医師	有	11,12
	疾病の成り立ち及び回復過程の促進 口腔病理学	1	16時間 90分×8	徳島大学大学院医歯薬学研究部　口腔病理学分野 松澤　鎮史　先生	歯科医師	有	13,14
	疾病の成り立ち及び回復過程の促進 口腔微生物学	1	16時間 90分×8	徳島大学大学院医歯薬学研究部　口腔微生物学分野 廣島　佑香　先生	歯科医師	有	15,16
	疾病の成り立ち及び回復過程の促進 歯科薬理学	2 ＊前期薬理学と総合	10時間 90分×5	徳島歯科学院専門学校　歯科技工士科 専任教員　弘田　克彦	歯科医師	有	17
	歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み 口腔衛生学Ⅱ	2	32時間 90分×10	徳島大学大学院医歯薬学研究部　口腔保健衛生学分野 福井　誠　先生	歯科医師	有	18-22
			90分×6	徳島大学大学院医歯薬学研究部　口腔保健衛生学分野 日野出　大輔　先生	歯科医師	有	
専門分野	歯科衛生学総論 医療倫理	1	20時間 90分×10	徳島歯科学院専門学校　歯科技工士科 専任教員　弘田　克彦	歯科医師	有	23,24
	臨床歯科医学 保存修復学	1	28時間 90分×14	徳島大学大学院医歯薬学研究部　歯科保存学分野 岡本　梨沙　先生	歯科医師	有	25,26
	臨床歯科医学 歯内療法学	1	28時間 90分×6	徳島大学大学院医歯薬学研究部　歯周歯内療法学分野 木戸　理恵　先生	歯科医師	有	27,28
			28時間 90分×8	徳島大学大学院医歯薬学研究部　歯周歯内療法学分野 板東　美香　先生	歯科医師	有	
	歯科予防処置論 う蝕予防処置法Ⅰ	6 (1学年・2学年総合)	年間12時間 90分×6	徳島歯科学院専門学校　歯科衛生士科 専任教員　溝江　里美	歯科衛生士	有	1年 前期 参照
	歯科予防処置論 歯周病予防処置法Ⅰ		年間138時間 90分×69	徳島歯科学院専門学校　歯科衛生士科 専任教員　溝江　里美	歯科衛生士	有	
	歯科保健指導論 歯科保健指導Ⅰ	7 (1学年・2学年総合)	年間110時間 90分×55	徳島歯科学院専門学校　歯科衛生士科 専任教員　寺西　菜実	歯科衛生士	有	
	歯科診療補助論 歯科診療補助	7 (1学年・2学年総合)	年間150時間 90分×75	徳島歯科学院専門学校　歯科衛生士科 専任教員　寺西　菜実	歯科衛生士	有	
選択必須分野	ヒューマンスキル コミュニケーション学	1	16時間 90分×8	徳島歯科学院専門学校　歯科衛生士科 専任教員　福井　かおり	歯科衛生士	有	29
備考							

科目分野	基礎分野	科目名	化学
学年	1年次	学期	後 期
時間数	28 時間 （ 90 分 × 14 回 ）	単位数	1 単 位
授業形態	講義	使用場所	2F教室(1)
担当教員	吉田 光昭		

授業の目的(GIO)

化学の基礎的知識、物質の性質・構造・変化について理解することを目指す。医療現場において、多様な歯科材料・薬剤等の物質を扱ったり、口腔を中心とする健康管理を行ったりする立場にある歯科衛生士として役立つ基礎的知識について化学的視野から理解することを目標とする。

授業の概要

基本的な、物質の構造と性質、気体や水溶液の性質と法則、化学反応、有機化合物、生体を形成している化学物質について「歯科医学」と化学の関連を認識しながら化学的理解力、応用力を身に着ける。

到達目標(SBOs)

1. 物質の分類、元素と原子の概念を理解できる。
2. 原子の構造を説明し、原子番号、質量数と共に元素記号を記載できる。
3. 物質量の単位として用いるモルの単位を理解し説明できる。
4. 化学結合の特徴を理解し、歯科材料の性質を認識する。
5. 気体の法則をしり、大気中の主な気体の性質を説明できる。
6. 砂糖水を例にとり、溶質、溶媒、溶液について説明できる。
7. 溶液の濃度(vol%, w/v%, w/w%, ppm)計算と調製法(消毒液の調製等)が説明できる。
8. 身の回りのコロイド、歯科材料のコロイドの応用が説明できる。
9. 酸・アルカリの水溶液について性質が説明できる。
10. 酸化・還元の定義を説明し、いくつかの酸化・還元の化学反応式が書ける。
11. オキシドールの成分である過酸化水素が酸素と水に分解する反応を例に、触媒について説明できる。
12. 歯の無機成分が酸によって溶ける性質を化学平衡の法則と、ルシャトリエの原理を用いて説明できる。
13. 有機化合物の特徴を説明できる。
14. 異性体(構造異性体・立体異性体・幾何異性体・光学異性体)を認識する。
15. ヒトの体を構成する有機化合物(糖・タンパク質・脂質・核酸)の基本構造を理解する。
16. 必須アミノ酸について説明できる。

授業計画

回	大項目	中項目	内容	到達目標	担当教員
1	物質とは何だろう1	物質の分類・物質の構造	混合物と純物質、原子の構造	1	吉田
2	物質とは何だろう2	物質を構成する基本単位	原子の電子配置とイオン	2	吉田
3	物質とは何だろう3	元素の周期表・物質量	元素の周期律と元素各論	3、4	吉田
4	物質とは何だろう4	化学結合	電子式、イオン結合、共有結合、等	5	吉田
5	気体について知ろう	気体のルールと気体の性質	各種法則、各種気体	6	吉田
6	物質が水に溶けるとは1	水溶液について1	水溶液とは何か、質量%濃度、質量対容量%濃度	7	吉田
7	物質が水に溶けるとは2	水溶液について2	モル濃度、浸透圧	8	吉田
8	物質が水に溶けるとは4	酸・アルカリについて	酸とアルカリの性質、水素イオン濃度	9	吉田
9	酸化とは 還元とは	酸化と還元	酸化と還元、金属のイオン化傾向	10	吉田
10	化学反応では原子の組み換えが起こっている	化学反応・化学平衡	化学反応、化学反応式、活性化エネルギー、可逆反応、化学平衡、	11、12	吉田
11	有機化合物とは何だろう1	有機化合物に名前を付ける	有機化合物の名称、性質	13	吉田

12	有機化合物とは何だろう2	同じ原子から違った構造が	構造異性体、立体異性体、	14	吉田
13	人を作っているものは何だろう1	ヒトのを形作る元素、水の人に体における役割	ヒトの主要有無希元素、微量無機元素、水の特性	15	吉田
14	人を作っているものは何だろう2	アミノ酸とタンパク質、脂質、核酸	アミノ酸、必須アミノ酸、たんぱく質、脂質、核酸	15、16	吉田

教科書

歯科衛生学シリーズ 化学　全国歯科衛生士教育協議会 監修 （医歯薬出版株式会社）

参考書

試験の受験資格

3分の2以上の出席

成績評価の方法

授業への参加度、出席状況、小テスト、レポートを加味して学期末試験成績を主に評価し合否を判定する。100点満点中60点以上を合格とする。

備考

科目分野	基礎分野		科目名	歯科英語
学年	1年次		学期	後 期
時間数	28 時間 （ 90 分 × 14 回 ）		単位数	1 単 位
授業形態	講義、演習		使用場所	2F教室(1)
担当教員	伊賀弘起	大学病院で歯科医師としての実務経験あり		

授業の目的(GIO)

歯科衛生士として日本に滞在する外国人の患者と意思疎通を図るために必要な歯科用語と英会話を修得する。さらに海外の歯科衛生士、歯科医師等の口腔保健の専門職と学術的な協議を行うための知識と技能を修得する。

授業の概要

本科目では国際的な歯科衛生士に必要なコミュニケーションツールとしての歯科英語を学習する。すなわちコースの最初は歯科衛生士として頻用する歯科用語を講義にて学習する。その後に外国人患者を対象とした臨床での様々な場面を想定し、それぞれの英語コミュニケーションを反転授業、ロールプレイを通して疑似体験する。

到達目標(SBOs)

1. 国際的歯科衛生士として頻用する歯科用語(英語)を説明できる。
2. 外国人が電話で診療の予約をとる際に英語で対応できる。
3. 外国人の患者からの鎮痛薬等を要望に対応できる。
4. 歯科の救急予約に英語で対応できる。
5. 外国人の患者に対して医療保険制度を英語で説明できる。
6. 医療面接を英語で実施できる。
7. 妊娠中の外国人の患者に対して英語で対応できる。
8. 口腔ケアの重要性を英語で説明できる。
9. 外国人の患者からインフォームドコンセントを取得できる。
10. 治療後の指示を英語で実践できる。
11. 海外の歯科診療所のシステムを理解する。

授業計画 plan

回	大項目	中項目	内容	到達目標	担当教員
1	Important Vocabulary for Dental Hygienists	歯科英語の基礎知識 (講義)	・歯科医療に携わるもの ・歯科学 ・検査 ・痛みの種類 ・全身疾患	1	伊賀
2	Important Vocabulary for Dental Hygienists	歯科英語の基礎知識 (講義)	・歯科疾患 ・歯科治療 ・歯の名称 ・部位の名称 ・口腔解剖用語 ・人体各部位	1	伊賀
3	English Conversation for Dental Hygienists	外国人の患者に対する対応 (ロールプレイ)	電話での予約	2	伊賀
4	English Conversation for Dental Hygienists	外国人の患者に対する対応 (ロールプレイ)	薬の依頼	3	伊賀
5	English Conversation for Dental Hygienists	外国人の患者に対する対応 (ロールプレイ)	救急の予約	4	伊賀
6	English Conversation for Dental Hygienists	外国人の患者に対する対応 (ロールプレイ)	医療保険制度	5	伊賀
7	English Conversation for Dental Hygienists	外国人の患者に対する対応 (ロールプレイ)	医療面接 1	6	伊賀

8	English Conversation for Dental Hygienists	外国人の患者に対する対応（ロールプレイ）	医療面接　2	6	伊賀
9	English Conversation for Dental Hygienists	外国人の患者に対する対応（ロールプレイ）	妊娠中の患者に対する対応	7	伊賀
10	English Conversation for Dental Hygienists	外国人の患者に対する対応（ロールプレイ）	口腔ケアの重要性の説明	8	伊賀
11	English Conversation for Dental Hygienists	外国人の患者に対する対応（ロールプレイ）	インフォームドコンセント	9	伊賀
12	English Conversation for Dental Hygienists	外国人の患者に対する対応（ロールプレイ）	患者さんへの診療後の指示　1	10	伊賀
13	English Conversation for Dental Hygienists	外国人の患者に対する対応（ロールプレイ）	患者さんへの診療後の指示　2	10	伊賀
14	English Conversation for Dental Hygienists	外国人の患者に対する対応（ロールプレイ）	海外の歯科診療所のシステム	11	伊賀

教科書

「歯科英語」
（監修：一般社団法人　全国歯科衛生士教育協議会　発行：医歯薬出版株式会社）

参考書

Any book on dental terminology and doctor-patient communication.

試験の受験資格

3分の2以上の出席

成績評価の方法

最終試験は行わない。出席状況とロールプレイの取り組み（50点）とレポート（50点）を総合して、合否を判定する。100点満点中60点以上を合格とする。

備考

反転授業、ロールプレイ等のアクティブラーニングを活用する。

科目分野	基礎分野	科目名	社会学
学年	1年次	学期	後 期
時間数	32 時間 （ 90 分 × 16 回 ）	単位数	2 単 位
授業形態	講義	使用場所	2F教室(1)
担当教員	中岡 泰子		

授業の目的(GIO)

私たちが生きている社会はどのように構築されてきたのかを理解するとともに、課題となっている社会現象を社会学的なものの見方・考え方から分析・議論できる力を習得する。また、歯科衛生士として、患者や地域の人々を取り巻く社会的背景（家庭環境・労働・格差・高齢化等）を理解し、社会的視野を持つための基盤を作る。

授業の概要

「社会学」は、社会の仕組みや働き、社会変動と発展を人間の社会的行為と関わらせながら解明し、現実問題の解決に寄与しようとする学問である。研究対象は個人から国家レベルまで広く、扱う分野も人間や家族、地域社会、産業活動、文化など幅広い。本授業では、社会学の基礎的概念・基礎理論を学びながら、社会の最も基礎的集団である「家族」を中心に、現代社会の課題を考える。具体的には、近年大きな社会的課題となっているトピック、例えば、「就労問題」「児童虐待やDV」「超少子高齢社会」など身近な問題を取り上げ、社会変動が家族や個人のライフスタイルに及ぼす影響について考察する。

到達目標(SBOs)

1. 近代家族の変容と家族の機能・役割の変化について理解し、現代の家庭環境への影響を説明できる。
2. ジェンダー、労働、格差などの社会構造が、人々の生活に及ぼす影響を論理的に説明できる。
3. 児童虐待・ネグレクトやDV、高齢者問題などの社会的課題に対して理解を深め、歯科衛生士としての関わりや多職種連携の必要性を提案できる。

授業計画

回	大項目	中項目	内容	到達目標	担当教員
1	オリエンテーション	社会学と歯科衛生の接点	私たちを取り巻く社会の成り立ちや社会と個人の関係を理解するとともに、歯科衛生士が社会学を学び、社会的視野を持つことの意義について考える。	1,2,3	中岡
2	家族とは(1)	家族の多様化と生活影響	少子高齢化、未婚率上昇、単身世帯急増、LGBTQ+など、家族形態の変化を理解し、家族の多様化が個人の生活や意識に及ぼす影響を理解する。	1	中岡
3	家族とは(2)	近代家族の変容と家族の機能・役割	産業化に伴い「近代家族」がどのように誕生し変容したか(高度経済成長期以降の家族変動等)の理論を学び、家族の機能(社会化・養育等)や役割の変化と現代の課題を考察する。	1	中岡
4	家族とは(3)	社会環境と健康・生活の格差	社会経済的背景が人々の生活に与える影響(社会的決定要因の概念)を学び、社会における格差の問題を考える。	2	中岡
5	ジェンダーと社会(1)	ジェンダーと職場の人間関係	社会における「男らしさ」「女らしさ」といったジェンダーが私たちの選択や行動に与える影響について考える。また、職場における性別役割分業や、セクハラ・パワハラ等のハラスメント防止について言及する。	2	中岡
6	ジェンダーと社会(2)	ライフコースと女性のキャリア	ライフイベント(結婚・出産等)とキャリア形成の変化を学び、長期的キャリア継続のあり方を議論する。	2	中岡
7	家族問題(1)	子育て環境の変化と孤立	子育ての歴史と社会的環境の変化をたどり、現代の核家族化・孤立育児の課題を学ぶ。家庭環境が子どもの育ちに与える影響と、社会的支援の必要性を理解する。	1,3	中岡
8	家族問題(2)	児童虐待・ネグレクトと専門職の役割	児童虐待の現状とメカニズム、社会的背景を学ぶ。ネグレクトなど家庭内の課題に気づいた際の歯科衛生士としての視点や、発見・通告義務などの役割について理解する。	3	中岡

9	家族問題(3)	DV・高齢者問題と地域社会の連携	家庭内暴力(DV)や高齢者虐待などの現状と背景を学ぶ。被害の発見や危機介入において、関係機関や地域社会と連携する専門職の役割を考察する。	3	中岡
10	社会環境と労働(1)	社会の変容と社会保障制度	資本主義・グローバル化と働き方の変化を学ぶ。あわせて、私たちの生活を支える日本の公的社会保障制度や健康保険制度の基礎的な仕組みを理解する。	2	中岡
11	社会環境と労働(2)	社会的排除と受診アクセス	女性の就労課題、ワーキングプア、社会的排除の現状を整理し、生活困窮層も含め誰もが安心して暮らす(必要な受診やケアにアクセスできる)ための支援策を考える。	2	中岡
12	社会環境と労働(3)	多様な働き方と職場での協働	働き方改革、ダイバーシティ、ワークライフバランスについて学ぶ。多職種が協働する職場環境において、健全に働くための課題を考える。	2	中岡
13	私たちの生活の未来(1)	超少子高齢社会と地域社会の支え合い	超少子高齢社会や人口減少社会の背景と将来予測を説明する。高齢者の生活課題や地域包括ケアシステムの仕組みを学び、地域で果たす歯科衛生士の役割を考える。	3	中岡
14	私たちの生活の未来(2)	ソーシャル・キャピタルと人々の繋がり	社会構造をネットワークとして捉える視点を学ぶ。地域や人々の繋がり(ソーシャル・キャピタル)が、人々の安心・健康な暮らしに与える好影響について解説する。	2,3	中岡
15	私たちの生活の未来(3)	技術革新・多文化共生とこれからの生活	ICT・AIなどの技術進歩が生活や働き方に与える影響を考える。また、多文化共生社会の進展など、これからの社会環境の変化を考察する。	3	中岡
16	総括	授業の振り返りとまとめ	排除と包摂、ケアと共生といった概念を中心に振り返る。多様な人々が共存する社会において、歯科衛生士が担う社会的役割や視点についてまとめとして考える。	1,2,3	中岡

教科書

特に使用せずに、授業毎にプリントを配布する。

参考書

長津美代子・小澤千穂子編,『三訂 新しい家族関係学』, 建帛社, 2023.
岩間暁子・大和礼子・田間泰子著,『問いからはじめる家族社会学 − 多様化する家族の包摂に向けて〔改訂版〕』, 有斐閣, 2022.
園井ゆり他著『第4版 家族社会学―基礎と応用―』, 九州大学出版会, 2022.
日本家政学会家族関係学部会編,『現代家族を読み解く12章』, 丸善出版, 2018.
他、必要に応じて授業時に提示する。

試験の受験資格

3分の2以上の出席

成績評価の方法

授業への参加態度、ワークシート(小レポートを含む)及び最終レポートで総合評価する。100点満点中60点以上を合格とする。

備考

本授業を通じて、個人の問題としていた事象や自分とは関係がないとみていた事象が、実は自分を取り巻く社会と密接であることに気づいてもらいたいと思っています。毎時、授業で学んだことを書いて提出してもらいます。また、授業中にグループディスカッションを取り入れますので、積極的に参加してください。質問等については、E-mail: yasuko-a@shikoku-u.ac.jpまで。

科目分野	専門基礎分野	科目名	栄養学
学年	1年次	学期	後 期
時間数	32 時間 （ 90 分 × 16 回 ）	単位数	2 単 位
授業形態	講義	使用場所	2F教室(1)
担当教員	林 由都		

授業の目的(GIO)

歯科衛生士を目指すにあたって必要な栄養学の知識を身につける。

授業の概要

主に配布プリントを元に講義を進める。

到達目標(SBOs)

1. 健康の維持のために、栄養の知識を学ぶ意義を知る
2. 栄養素の基本的な知識を学び、生体での役割を理解する
3. 主要なエネルギー基質である糖質の代謝を理解する
4. たんぱく質およびアミノ酸の代謝分解過程を理解する
5. 主要なエネルギー基質である脂質の代謝を理解する
6. 三大栄養素(糖質、たんぱく質、脂質)について、生体での役割と代謝過程を理解する
7. 栄養素の消化・吸収の基本を知る
8. ビタミンとミネラルの種類および欠乏症、過剰症について理解する
9. 栄養素の相互作用、相互の影響について健康維持との関係を知る
10. 現代人に必要な栄養素の必要量と摂取における問題点を学ぶ
11. 食生活と健康との関連について学び、健康の維持・増進を図るための栄養指導の必要性について考察する
12. 公衆栄養活動の概念を理解し、健康づくりのための食生活改善方法を学ぶ
13. 食と健康に関する法律や指標、目標について学ぶ
14. 成長期、成人期、高齢期に至るライフステージ別の食生活の特徴を理解する
15. 食品の3つの機能性(栄養、嗜好・感覚、生体調節)について理解を深める
16. 食品の特性を美味しさ要因、物性・テクスチャーなどから理解する
17. 今まで習ってきた知識を整理し活用できるように理解を深める

授業計画

回	大項目	中項目	内容	到達目標	担当教員
1	栄養の基礎知識	食生活と栄養	栄養とは何か	1	林
2	生体の構成要素	生体構成成分と栄養素	各栄養素の構造と種類	2	林
3	栄養素の働き1	各栄養素の栄養学的意義	糖質について	3	林
4	栄養素の働き1	各栄養素の栄養学的意義	たんぱく質について	4	林
5	栄養素の働き2	各栄養素の栄養学的意義	脂質について	5	林
6	栄養素の働き2	各栄養素の栄養学的意義	三大栄養素のまとめ	6.7	林
7	栄養素の働き3	各栄養素の栄養学的意義	ビタミン、ミネラルについて	8	林
8	栄養素の働き3	各栄養素の栄養学的意義	五大栄養素のまとめ	9	林
9	食事摂取基準	基礎代謝	基礎代謝量	10	林
10	食事摂取基準	エネルギー必要量	日本人の食事摂取基準について	10.11	林
11	食生活と健康	国民の健康と栄養の現状	公衆栄養活動の歴史、法律	12	林
12	食生活と健康	望ましい食生活	健康日本21について	13	林

13	食生活と健康	ライフステージ別の栄養	ライフステージ別の栄養と献立	14	林
14	食べ物と健康	食べ物の物性	味覚・嗅覚への食品の効果	15.16	林
15	まとめ	栄養素の消化・吸収	五大栄養素について	17	林
16	まとめ	疾病予防・NST	公衆栄養、栄養ケア・マネジメント	17	林

教科書

歯科衛生学シリーズ　人体の構造と機能3　栄養学

参考書

試験の受験資格

3分の2以上の出席

成績評価の方法

授業態度、出席状況を加味して、学期末試験成績を主に評価し合否を判定する。100点満点中60点以上を合格とする。

備考

科目分野	専門基礎分野	科目名	口腔生理学
学年	1年次	学期	後 期
時間数	16 時間 （ 90 分 × 8 回 ）	単位数	1 単 位
授業形態	講義	使用場所	2F教室(1)
担当教員	赤松 徹也、長谷川 敬展		

授業の目的(GIO)

口腔の重要な機能（咬合、咀嚼、嚥下、味覚、唾液分泌、発声等）について、関連する構造と合わせて学び、理解する。

授業の概要

1）歯と歯周組織の生理（歯、歯髄、歯周組織の構造と生理機能）
2）咬合と咀嚼（咀嚼筋の構造と機能、下顎運動、顎関節、咀嚼）
3）吸引（吸啜）・嚥下・嘔吐・口呼吸・口臭（摂食・咀嚼・嚥下機序、嘔吐反射、他）
4）歯と口腔の感覚（体性感覚と味覚）
5）唾液腺と唾液（分泌機構、性状および役割）
6）発声（声帯振動と構音）

到達目標(SBOs)

1. 歯・口腔の機能を説明できる。
2. 歯の硬組織の組織学的構造と機能を説明できる。
3. ヒドロキシアパタイトなどを含む歯の無機成分を説明できる。
4. 歯の有機成分を説明できる。
5. 歯の脱灰と再石灰化を説明できる。
6. 歯髄の組織学的構造と機能を説明できる。
7. 歯と口腔粘膜の感覚を概説できる。
8. 頭頸部の筋の構成と機能を概説できる。
9. 顎関節の構造と機能を説明できる。
10. 歯列と咬合を概説できる。
11. 下顎の運動を概説できる。
12. 咀嚼の意義を説明できる。
13. 舌の構造と機能を説明できる。
14. 摂食・咀嚼・嚥下の機序を説明できる。
15. 吸啜と嘔吐を概説できる。
16. 歯周組織の組織学的構造と機能を説明できる。
17. 味覚器の構造と味覚を説明できる。
18. 唾液腺の位置と構造を説明できる。
19. 唾液の性状と役割を説明できる。
20. 喉頭の構造を概説できる。
21. 構音器官としての口腔を概説できる。

授業計画

回	大項目	中項目	内容	到達目標	担当教員
1	歯と歯周組織	歯と歯周組織の構造と機能	歯、歯髄、および歯周組織の生理機能	1－7	赤松
2	咬合と咀嚼 I	咀嚼筋の構造と機能、下顎運動	咀嚼筋の種類とその働き、下顎運動の神経調節	8－11	赤松
3	咬合と咀嚼 II	顎関節、咀嚼・咀嚼力	顎関節、および口腔諸器官の構造と機能、咀嚼、咬合力と咀嚼力	9－14	赤松
4	吸引(吸啜)・嚥下・嘔吐・口呼吸・口臭	摂食・咀嚼・嚥下機序、吸引(吸啜)反射、嘔吐反射	吸引(吸啜)反射、嚥下運動、嘔吐反射、口呼吸、口臭の原因	14, 15	赤松
5	歯と口腔の感覚 I	歯と口腔の体性感覚	歯、歯髄および口腔粘膜の感覚	7, 16	長谷川
6	歯と口腔の感覚 II	味覚	味蕾の構造と機能、味覚受容機構、味覚検査、味覚異常	13, 17	長谷川
7	唾液	唾液腺と唾液	唾液腺の構造、唾液分泌機構、唾液の性状・成分と役割	18, 19	長谷川

8	発声	発声機構と言語音形成	喉頭の構造と声帯振動、 構音器官による言語音形成	20, 21	長谷川

教科書

歯科衛生学シリーズ　歯・口腔の構造と機能　口腔解剖学・口腔組織発生学・口腔生理学

参考書

必要に応じて補足資料等配布。

試験の受験資格

3分の2以上の出席

成績評価の方法

授業態度、出席状況を加味して、学期末試験成績を主に評価し合否を判定する。100点満点中60点以上を合格とする。基本的に再試験は必要と判断した場合に一度のみ行う。

備考

科目分野	専門基礎分野		科目名	組織発生学
学年	1年次		学期	後 期
時間数	16 時間 （ 90 分 × 8 回 ）		単位数	1 単 位
授業形態	講義、実習		使用場所	2F教室(1)
担当教員	吉田 秀夫	大学病院で歯科医師としての実務経験あり		

授業の目的(GIO)

受精から胎児期にかけて主要な組織の分化と構造・機能の概略、顎・顔面の発生過程を理解する。
乳歯の萌出から永久歯列完成期及びそれ以後の歯並びに歯周組織の成り立ち、構造と生理を理解する。

授業の概要

胎児期から出生、乳幼児期を経て永久歯列が完成するまで、および完成した歯と歯周組織の概要を説明し、齲蝕や歯周病の予防と治療についても述べる。

到達目標(SBOs)

1. 受精卵の分割過程で内胚葉、中胚葉、外肺葉の分化と組織発生において相互の関係を概説できる。
2. 顎・顔面・口腔・頸部の形成に関与する鰓弓について概説できる。
3. 顔面, 鼻腔, 口腔および頸部の形成について機説できる。
4. 口唇裂、口蓋裂等の疾患の発症について概説でき、生後の障害と治療・特に歯科的関与による障害軽減を概説できる。
5. 歯の発生、並びに乳歯と永久歯の交換を概説できる。
6. エナメル質、象牙質、セメント質の形成の異同を概説できる。
7. 歯と骨との異同を概説できる。
8. 歯髄について概説できる。
9. 歯周組織（セメント質、歯根膜、歯槽骨、歯肉）について概説できる。

授業計画

回	大項目	中項目	内容	到達目標	担当教員
1	受精から出生	遺伝子、細胞分化、肺葉	遺伝子の働き	1	吉田
2	顔面・口腔の発生	鰓弓、突起形成と癒合	鰓弓、各突起の発育	2～4	吉田
3	歯の発生・萌出・交換	歯堤、歯胚、代生歯胚	エナメル器、歯乳頭	5	吉田
4	エナメル質	内・外エナメル上皮	エナメル上皮、エナメル髄	6	吉田
5	象牙質・歯髄	歯乳頭	象牙芽細胞、歯髄細胞	7,8	吉田
6	セメント質・歯根膜 歯槽骨・歯肉	歯小嚢	ヘルトウィッヒ上皮鞘 マラッセ上皮遺残	8,9	吉田
7	歯、口腔疾患の臨床	齲蝕、歯周病の原因	齲蝕、歯周病の治療	4～8	吉田
8	国試対策	過去問の検討	過去問	12～14	吉田

教科書

歯科衛生学シリーズ 歯・口腔の構造と機能「口腔解剖学・口腔組織発生学・口腔生理学」:医歯薬出版株式会社

参考書

試験の受験資格

3分の2以上の出席

成績評価の方法

授業態度、出席状況を加味して、学期末試験成績を主に評価し合否を判定する。100点満点中60点以上を合格とする。

備考

科目分野	専門基礎分野	科目名	口腔病理学
学年	1年次	学期	後 期
時間数	16 時間 （ 90 分 × 8 回 ）	単位数	1 単 位
授業形態	講義、実習	使用場所	2F教室(1)
担当教員	松澤 鎮史	大学病院で歯科医師としての実務経験あり	

授業の目的(GIO)

疾病と健康について理解する

授業の概要

口腔領域に生じる疾患の病態を学ぶ

到達目標(SBOs)

1. 歯の異常について説明できる
2. 歯の損傷やう蝕について説明できる
3. 歯髄炎や象牙質知覚過敏症について説明できる
4. 歯周炎や歯肉炎について説明できる
5. 様々な口腔粘膜疾患を列挙できる
6. 口腔領域の嚢胞や腫瘍、口腔癌を列挙できる
7. 顎骨や唾液腺の病変を列挙できる
8. 口腔顎顔面の発生や加齢組織を理解する

授業計画

回	大項目	中項目	内容	到達目標	担当教員
1	歯の発育異常	歯の形・数・大きさの異常	さまざまな原因で生じる歯の異常	1	松澤
2	歯の損傷と着色・付着物/う蝕	歯の損傷・着色/う蝕の疫学と原因・分類・組織学的変化	咬耗・摩耗/う蝕の病態	2	松澤
3	象牙質・歯髄複合体の病態	歯髄炎・象牙質知覚過敏症	歯髄炎・象牙質知覚過敏症	3	松澤
4	歯周組織の病態	根尖部歯周炎・歯周炎・歯肉炎	歯肉炎や歯周炎など	4	松澤
5	口腔粘膜の病変	口腔粘膜の特徴/メラニン色素沈着症/口腔カンジダ症など	さまざまな口腔粘膜疾患	5	松澤
6	口腔領域の嚢胞と腫瘍/口腔癌	歯原性嚢胞・腫瘍/非歯原性嚢胞・腫瘍/上皮性異形成と上皮内癌/扁平上皮癌	歯原性・非歯原性の嚢胞および腫瘍/口腔潜在的悪性疾患と口腔癌	6	松澤
7	顎骨の病変/唾液腺の病変	顎骨骨髄炎・顎骨壊死/流行性耳下腺炎・シェーグレン症候群・唾石症/粘液嚢胞	骨髄炎/良性・悪性唾液腺腫瘍など	7	松澤
8	口腔領域の奇形/口腔組織の加齢変化	顔面と口腔の披裂・奇形症候群/口腔組織の加齢変化	奇形症候群と加齢変化	8	松澤

教科書

歯科衛生学シリーズ:疾病の成り立ち及び回復過程の促進1 病理学・口腔病理学 全国歯科衛生士教育協議会監修 （医歯薬出版株式会社）

参考書

試験の受験資格

3分の2以上の出席

成績評価の方法
授業態度、出席状況を加味して、学期末試験成績を主に評価し合否を判定する。100点満点中60点以上を合格とする。

備考

科目分野	専門基礎分野	科目名	口腔微生物学
学年	1年次	学期	後 期
時間数	16 時間 （ 90 分 × 8 回 ）	単位数	1 単 位
授業形態	講義	使用場所	2F教室(1)
担当教員	廣島 佑香	大学病院で歯科医師としての実務経験あり	

授業の目的(GIO)

感染の原因である微生物の種類と特性ならびに生体の防御機構を理解し、感染症の基本的な知識、理論を身につける。

授業の概要

病原微生物学では微生物の基本的知識や取り扱い方、感染症を引き起こす代表的な病原微生物の性状や発生のメカニズムなどについて学ぶとともに、感染症などに対する宿主の防御機構(免疫)とアレルギーについて学ぶ。

到達目標(SBOs)

1. 主な病原細菌の性状と病原因子および予防・治療法を説明できる。
2. 歯科に関連する主なウイルスの種類と特徴を説明できる。
3. 主なウイルス感染症の病態および治療法・予防を説明できる。
4. 歯科に関連する真菌の性状と感染機構を説明できる。
5. 生体のバリア機構を説明できる。
6. 自然免疫、獲得免疫の仕組みを説明できる。
7. 抗原提示の仕組みを説明できる。
8. 能動免疫と受動免疫の仕組みを説明できる。
9. アレルギーの定義および自己免疫疾患との違いについて説明できる。
10. アレルギーの類型について説明できる。

授業計画

回	大項目	中項目	内容	到達目標	担当教員
1	Ⅲ編 病原微生物学	1章 主な病原細菌	グラム陽性球菌 グラム陽性桿菌	1	廣島
2	Ⅲ編 病原微生物学	1章 主な病原細菌	グラム陰性球菌 グラム陰性桿菌	1	廣島
3	Ⅲ編 病原微生物学	1章 主な病原細菌	スピロヘータ、マイコプラズマ クラミジア、リケッチア	1	廣島
4	Ⅲ編 病原微生物学	2章 歯科に関連するウイルスとウイルス感染症	DNAウイルス、RNAウイルス レトロウイルス、肝炎ウイルス	2, 3	廣島
5	Ⅲ編 病原微生物学	3章 歯科に関連する真菌 4章 口腔領域の原虫 5章プリオン	真菌、原虫、プリオン	4	廣島
6	Ⅳ編 免疫学	1章 免疫	免疫の種類、生体バリア機構 自然免疫、抗原提示	5-7	廣島
7	Ⅳ編 免疫学	1章 免疫	獲得免疫、能動免疫と受動免疫 粘膜免疫	8	廣島
8	Ⅳ編 免疫学	2章 アレルギー 3章 免疫に関する疾患	アレルギーの種類と発生機序 自己免疫疾患、免疫不全、 移植免疫	9, 10	廣島

教科書

歯科衛生学シリーズ 微生物学(全国歯科衛生士教育協議会編)(医歯薬出版)

参考書

試験の受験資格

3分の2以上の出席

成績評価の方法

授業態度、出席状況を加味して、学期末試験成績を主に評価し合否を判定する。100点満点中60点以上を合格とする。

備考

科目分野	専門基礎分野		科目名	歯科薬理学
学年	1年次		学期	後 期
時間数	10 時間 （ 90 分 × 5 回 ）		単位数	1 単 位
授業形態	講義		使用場所	2F教室(1)
担当教員	弘田克彦	大学病院で歯科医師としての実務経験あり		

授業の目的(GIO)

薬物の性質、薬理作用、作用機序および副作用を理解するために、疾病の回復を促進する薬物に関する基本知識を習得する。

授業の概要

総論では、薬物に共通する薬物動態学や、薬力学を学習する。その後、各論では歯科疾患治療薬も含む各種治療薬の作用機序や副作用について学習する。

到達目標(SBOs)

1. 薬物の作用、薬物動態について説明できる。
2. 薬物の適用方法の種類と特徴、薬物の作用に影響を与える要因について説明できる。
3. 薬物の副作用，有害作用、医薬品を適用する際の注意について説明できる。
4. 薬物の取り扱い、薬物と法律・医薬品について説明できる。
5. ビタミンとホルモン、末梢神経系に作用する薬物について説明できる。
6. 中枢神経系に作用する薬物について説明できる。
7. 循環器系に作用する薬物、腎臓に作用する薬物について説明できる。
8. 呼吸器系に作用する薬物、消化器系に作用する薬物について説明できる。
9. 血液に作用する薬物、免疫と薬、悪性腫瘍と薬について説明できる。
10. 代謝性疾患治療薬、炎症と薬について説明できる。
11. 痛みと薬、局所麻酔薬について説明できる。
12. 抗感染症薬について説明できる。
13. 消毒に使用する薬について説明できる。
14. う蝕予防薬、歯内療法薬について説明できる
15. 歯周疾患治療薬、顎・口腔粘膜疾患と薬、漢方医学と薬物について説明できる。

授業計画

回	大項目	中項目	内容	到達目標	担当教員
1	薬物の作用	薬物療法、薬理作用、薬物用量反応、薬物動態	薬物療法の種類、薬物の代謝過程、副作用、服薬指導、薬物と法律等	1―4	弘田
2	ビタミンとホルモン、神経作用薬	ビタミン、膵臓ホルモン、末梢・中枢神経作用薬物	脂溶性・水溶性ビタミン、インスリン、バゾプレシン、神経作用薬等	5―8	弘田
3	循環器系、呼吸器系、消化器系、悪性腫瘍	高血圧治療薬、利尿薬、気管支喘息治療薬、免疫関連薬	抗血栓薬、免疫抑制薬、抗アレルギー薬、糖尿病治療薬、NSAIDs等	9―11	弘田
4	抗感染症薬、消毒薬	抗菌スペクトル、耐性、作用機序、消毒薬の分類	βラクタム、マクロライド、テトラサイクリン、ニューキノロン等、各種消毒薬	12,13	弘田
5	歯科治療薬	各歯科治療に使用する薬剤	う蝕予防薬、歯内療法薬、歯周疾患治療薬、顎・口腔粘膜薬、漢方薬	14,15	弘田

教科書

歯科衛生学シリーズ 疾病の成り立ち及び回復過程の促進3 薬理学 医歯薬出版株式会社

参考書

必要があれば適宜紹介あるいはプリントにて配布する。

試験の受験資格

3分の2以上の出席

成績評価の方法

受験資格がある学生に対し、学期末試験成績を主に評価し合否を判定する。100点満点中60点以上を合格とする。

備考

授業には真剣に取り組み、理解できない時にはその場で遠慮なく質問してください。

科目分野	専門基礎分野	科目名	口腔衛生学Ⅱ
学年	1年次	学期	後 期
時間数	32 時間 （ 90 分 × 16 回 ）	単位数	2 単 位
授業形態	講義	使用場所	2F教室(1)
担当教員	日野出 大輔 , 福井 誠	大学病院で歯科医師としての実務経験あり	

授業の目的(GIO)

口腔衛生学は、歯科衛生士にとって関係の深い科目である。口腔の健康を保持増進させる理論と方法を理解し、口腔疾患の予防法を習得する。これらの知識と技術を生かして、口腔の健康の維持・増進における歯科衛生士の役割について、個人から集団を対象としたレベルでの口腔保健管理を実践できるよう理解を深める。

授業の概要

う蝕・歯周疾患を主とした口腔疾患の病因・病態を理解し、これらを踏まえた上で予防法について説明する。歯科保健活動の制度や法規について学習し、各ライフステージに応じた口腔保健管理を実践する上での歯科医療従事者との役割について理解する。具体的には、①口腔の正常な状態、機能の理解②異常や健康障害についての知識③それらの発生の阻止、予防、健康増進の具体的手段、方法 ④公衆歯科衛生活動と地域歯科保健活動について教授する。

到達目標(SBOs)

1. う蝕の疫学的特性を概説できる。
2. 歯周病の疫学的特性を概説できる。
3. その他の歯科疾患の疫学的特性を概説できる。
4. う蝕発生と進行のメカニズムを説明できる。
5. う蝕の分類と症状を説明できる。
6. う蝕の要因(宿主と歯、口腔細菌、飲食物)および社会的要因を説明できる。
7. う蝕活動性試験の目的と方法を説明できる。
8. う蝕の予防方法(第一次予防、第二次予防、第三次予防およびリスクに応じたう蝕予防方法)を説明できる。
9. 人間生態系におけるフッ化物の作用を理解できる。
10. 生態におけるフッ化物の代謝を説明できる。
11. フッ化物の毒性を認識し、正しい対処法を理解できる。
12. フッ化物応用によるう蝕予防法を列挙できる。
13. フッ化物のう蝕予防メカニズムを説明できる。
14. ライフステージに応じたフッ化物の応用方法を説明できる。
15. 健康な歯周組織の構造を説明できる。
16. 歯周疾患の炎症の広がりと症状を説明できる。
17. 歯周疾患の種類と原因を説明できる。
18. 歯周疾患のリスクファクターを列挙できる。
19. 歯周疾患の全身に与える影響を説明できる。
20. 歯周疾患の予防法を列挙できる。
21. 歯周疾患の予防と治療における処置を説明できる。
22. 定期的予防処置の必要性を説明できる。
23. 不正咬合を起こす要因を列挙し、予防可能な要因を説明できる。
24. 口臭の分類と検査法を説明できる。
25. 口臭を起こす要因を列挙し、予防法を説明できる。
26. 歯の咬耗、摩耗、アブフラクション、酸蝕の違いを理解し、それぞれの予防法を説明できる。
27. 顎関節症の症型分類と症状を説明できる。
28. 口腔癌の実態と予防法を説明できる。
29. 外来性色素による着色歯の原因と予防法を説明できる。
30. 口腔機能低下症の概念が理解できる。
31. 口腔機能低下症の予防と管理について説明できる。
32. 歯の形成不全の原因を説明できる。
33. 口内炎の分類、要因と予防法を説明できる。
34. 口腔乾燥症の原因と予防法を説明できる。
35. 生活と健康、地域社会と保健対策、時代変遷に伴う地域保健活動の変化を説明できる。

36. 地域保険を担う組織の仕組み、特徴を説明できる。
37. 地域保険の概念である経するプロモーションやノーマライゼーションなどの考え方を説明できる。
38. 地域保険の基本的な進め方を説明出来る。
39. 8020運動や健康日本21など地域歯科保健に関係する健康づくり対策や保健福祉関係施策を説明できる。
40. わが国の母子保健の概要を説明できる。
41. 母子保健手帳に記載された口腔に関係した質問項目を列挙できる。
42. 妊産婦への歯科保健指導の要点を説明できる。
43. 1歳6か月児・3歳児健康診査の目的を説明できる。
44. 1歳6か月児・3歳児健康診査の結果からう蝕罹患型を正確に分類できる。
45. う蝕罹患型に応じた歯科保健指導の要点を列挙できる。
46. 学校保健の対象者を列挙し、意義を説明できる。
46. 学校において被患率の高い疾病異常を列挙できる。
47. 学校保健関係職員を列挙し、その役割を説明できる。
48. 学校保健の保健教育と保健管理の概要を説明できる。
49. 学校における健康診断を列挙し、歯科に関する事後措置内容を説明できる。
50. 学校保健委員会の構成と活動の概要を説明できる。
51. 学校歯科健康診断の検査項目を列挙できる。
52. 学校歯科健康診断の記号をあげ、基準を説明できる。
53. 学校歯科健康診断後のCOとGOの事後措置を説明できる。
55. 学校保健活動における歯科衛生士の役割を説明できる。
56. 近年の生活習慣病の動向を概説できる。
57. わが国の生活習慣病対策の施策を列挙できる。
58. 成人期の歯科保健対策を説明できる。
59. 産業保健の目的を説明できる。
60. 産業保健に関する法規を説明できる。
61. 職業性疾病を起こす要因を説明できる。
62. 職業性歯科疾患の種類を説明できる。
63. 労働衛生対策の基本である作業環境管理、作業管理、健康管理を説明できる。
64. 職域における健康診断の種類を説明できる。
65. 口腔領域に関係のある職業性疾病とそれに対する徳所健康診断を説明できる。
66. 高齢者への保健対策の意義と特徴を説明できる。
67. フレイルと介護予防との関連性を説明できる。
68. オーラルフレイルと口腔機能低下の特徴を説明できる。
69. 高齢者（認知症を有する者も含む）の保健福祉に関する公的制度を説明できる。
70. 介護保険の概要を説明できる。
71. 要介護高齢者に対する口腔健康管理の有用性を説明できる。
72. 精神保健の概要を説明できる。
73. ライフステージにおける精神保健の特徴を説明できる。
74. 精神保健の動向を説明できる。
75. 精神保健福祉に係る行政機関および専門職の役割を説明できる。
76. 精神障害者の歯科保健の現状と課題を説明できる。
77. 日頃からの災害対策を説明できる。
78. 大規模災害時の保健医療を概説できる。
79. 災害関連死を説明できる。
80. 被災地での歯科保健活動を概説できる。
81. 災害時医療として歯科的個人識別を説明できる。
82. 歯科的個人識別における歯科衛生士の役割を説明できる。
83. 国や地域により健康水準や保健医療の発達程度が異なっていることを説明できる。
84. 持続可能な開発目標のねらいを説明できる。
85. 国際協力に関わる機関の役割を説明できる。
86. WHOやJICAの活動概要を説明できる。
87. 世界の歯科疾患の状況、口腔保健従事者の特徴を説明できる。

授業計画

回	大項目	中項目	内容	到達目標	担当教員
1	歯科疾患の疫学	う蝕の疫学 歯周病の疫学 歯の喪失の疫学 その他の疫学	・う蝕の疫学(う蝕の疫学的特性、我が国におけるう蝕の有病状況) ・歯周病の疫学(歯周病の疫学的特性、我が国における歯周病の状況) ・歯の喪失の疫学 ・その他の疫学(不正咬合の疫学、顎関節症の疫学、口腔癌の疫学、口腔粘膜疾患の疫学)	1～3	福井
2	う蝕の予防	う蝕発生と進行のメカニズム う蝕の分類と症状 う蝕の発生要因	・う蝕発生と進行のメカニズム(う蝕の定義、う蝕発生の病因論の歴史、う蝕の発生・進行のメカニズム) ・う蝕の分類と症状 ・う蝕の発生要因(う蝕発生の概念図、宿主と歯の要因(宿主要因)、口腔細菌の要因(病原要因)、飲食物(食餌性基質)の要因(環境要因)、う蝕の社会経済的要	4～6	福井
3	〃	う蝕活動性試験 う蝕の予防方法	・う蝕活動性試験(う蝕活動性試験の目的、う蝕活動性試験の種類と方法) う・蝕の予防方法(予防医学の概念とう蝕予防、発生要因に応じたう蝕予防、手段とう蝕予防、う蝕予防とエビデンス)	7,8	福井
4	フッ化物によるう蝕予防	わが国のフッ化物応用 フッ化物の一般性状と用語 人間生態系におけるフッ化物 フッ化物摂取量とその基準 フッ化物の代謝 フッ化物の毒性	・わが国のフッ化物応用 ・フッ化物の一般性状と用語(フッ化物の一般性状、フッ化物の用語) ・人間生態系におけるフッ化物 ・フッ化物摂取量とその基準(日本人のフッ化物摂取量、フッ化物摂取量の基準) フッ化物の代謝(吸収、血液中のフッ素、沈着、排泄) ・フッ化物の毒性(急性毒性、慢性毒性)	9～11	福井
5	〃	フッ化物応用によるう蝕予防法 フッ化物のう蝕予防メカニズム	・フッ化物応用によるう蝕予防法(フッ化物歯面塗布、フッ化物洗口、フッ化物配合歯磨剤、水道水フロリデーション、食品へのフッ化物添加、フッ化物サプリメント(錠剤・液剤)) ・フッ化物のう蝕予防メカニズム	12～14	福井
6	歯周疾患の予防	歯周疾患の症状と分類 歯周疾患の発症機序 歯周疾患の全身に与える影響	・歯周疾患の症状と分類(歯周組織の構造と炎症の広がり、歯周疾患の分類) ・歯周疾患の発症機序(細菌側の因子、歯肉炎から歯周炎への移行、歯周疾患のリスクファクター) ・歯周疾患の全身に与える影響	15～19	福井
7	〃	歯周疾患の予防手段と処置	・歯周疾患の予防手段と処置(歯周疾患の予防段階、付着細菌の除去、プラーク蓄積因子の除去、口腔の環境因子の改善、定期的歯科健診と歯科保健)	20～22	福井
8	その他の疾患・異常の予防	不正咬合の予防 口臭の予防 その他の歯科疾患・異常の予防	・不正咬合の予防(不正咬合の原因と種類、不正咬合の影響、不正咬合の予防方法) ・口臭の予防(口臭の原因、口臭の分類、口臭の検査、口臭の予防方法) ・その他の歯科疾患・異常の予防(歯の損耗、歯の破折、歯・口腔の外傷、顎関節症、口腔癌、着色歯・変色歯、口腔機能低下症、その他)	23～34	福井
9	地域保健・公衆衛生	地域社会と地域保健の概念 地域保健の組織 地域保健の新たな概念 地域保健活動の進め方 健康づくり対策と地域歯科保健	・地域社会と地域保健の概念(地域社会と健康、地域保健の概念、ハイリスクアプローチからポピュレーションアプローチへ) ・地域保健の組織(市町村、都道府県、国、保健所、市町村保健センター、地域歯科保健に関する組織、地域保健の推進に関わる多様な組織) ・地域保健の新たな概念(ヘルスプロモーション、ソーシャルキャピタル、ノーマライゼーションと生活機能、健康危機管理、保健指導から行動経済学へ) ・地域保健活動の進め方(現状の把握、問題の分析・活動項目の決定、活動計画と実施、活動の評価、具体的アプローチ方法) ・健康づくり対策と地域歯科保健(健康づくり対策の変遷,地域歯科保健の変遷と8020運動、健康日本21と健康増進法、歯科口腔保健の推進に関する法律(歯科口腔保健法)、その他の主な保健福祉関連	35～39	日野出

10	母子保健	母子保健の目的および概要 母子保健 小児保健 歯・口腔について 母子保健の現状と今後	・母子保健の目的および概要(母子保健の目的・意義、母子保健の概要) ・母子保健(母性保健、妊産婦の職業と環境) ・小児保健(乳幼児健康診査、乳幼児の保健指導) ・歯・口腔について(妊産婦期、乳児健診時(生後4～5か月、1歳6か月児健診時、3歳児健診時、4歳から就学前児の歯科保健) ・母子保健の現状と今後	40～45	武市
11	学校保健	学校保健の意義および概要 学校保健の活動と組織 学校歯科保健	・学校保健の意義及および概要(学校保健の意義と特徴、新しい健康問題への対応) ・学校保健の活動と組織(学校保健の行政組織と関係法規、学校保健職員と役割、学校保健の3領域) ・学校歯科保健(学校における歯科保健問題、学校歯科保健教育、学校歯科健康診断、歯科衛生士と学校歯科保健活動)	46～55	日野出
12	成人保健	成人保健の意義 生活習慣病 成人保健(生活習慣病)対策 成人歯科保健	・成人保健の意義 ・生活習慣病(生活習慣病の定義、生活習慣病の動向) ・成人保健(生活習慣病)対策(特定健康診査・特定保健指導、市町村の健康増進事業、スマート・ライフ・プロジェクト、がん対策) ・成人歯科保健(成人期の歯科保健の現状と目標、成人期の歯科保健事業)	56～58	福井
13	産業保健	産業保健の概念 職業性疾病 産業保健管理 産業保健活動	・産業保健の概念(産業保健の歩み・産業保健の目的・産業保健の特徴、労働基準行政の組織、産業衛生に関する法規) ・職業性疾病(職業性疾病、職業性疾病の発生状況、職業性歯科疾患) ・産業保健管理(安全衛生管理体制、衛生委員会、産業医・産業歯科医、総括安全衛生管理者・衛生管理者) ・産業保健活動(産業保健対策、健康診断および歯科健康診断、健康診断の事後措置、健康保持増進対策、職域での歯科保健)	59～65	福井
14	高齢者保健	高齢者保健の現状と意義 高齢者保健に関する公的制度 介護保険制度 要支援・要介護高齢者に対する口腔健康管理の有用性	・高齢者保健の現状と意義(人口統計による高齢化の現状、生理的老化と病的老化、フレイルと関連概念、口腔機能低下とオーラルフレイル、認知症と経度認知障害(MCI)) ・高齢者保健に関する公的制度(高齢者の医療の確保に関する法律(高齢者医療確保法)による健康づくり、健康増進法に基づく健康増進事業による高齢期の健康づくり、高齢者の保健事業と介護予防の一体的な実施認知症施策推進総合戦略(新オレンジプラン)にも続く対策、地域包括ケアシステム) ・介護保険制度(介護保険の仕組み、介護保険の流れ、介護予防のための施策、地域包括支援センターの役割) ・要支援・要介護高齢者に対する口腔健康管理の有用性	66～71	福井
15	精神保健	精神保健とはなにか 精神保健及び精神障害者福祉に関する法律(精神保健福祉法) ライフステージにおける精神保健 精神保健の動向 精神保健福祉に関わる行政機関及び専門職	・精神保健とはなにか ・精神保健及び精神障害者福祉に関する法律(精神保健福祉法)(制定の経緯) ・ライフステージにおける精神保健(胎児期、乳幼児期(0～6歳)、学童期(6～12歳)、思春期(13歳～18歳)、成人期、老年期) ・精神保健の動向(精神保健統計、精神障害者の社会復帰施策) ・精神保健福祉に関わる行政機関及び専門職(行政機関、精神保健福祉活動に関わる専門職種、精神保健福祉活動における多職種連携) ・精神障碍者の歯科保健	72～75	日野出

16	災害時の歯科保健 国際保健	大規模災害時の保健医療対策 被災地での歯科保健活動 災害時の個人識別における歯科衛生士の役割 国際保健の概要(医療全体) 国際歯科保健活動の現状	・大規模災害時の保健医療対策(日ごろからの災害対策、災害対策本部と災害時のフェーズ、医療救護チームと災害拠点病院、超急性期の災害保険、急性期の歯科保健救護・口腔支援、誤嚥性肺炎と災害関連死) ・被災地での歯科保健活動(被災地での歯科保健活動に必要な心構え、歯科衛生士が行う被災者支援と歯科保健活動) ・災害時の個人識別における歯科衛生士の役割(災害時医療としての歯科的個人識別、歯科的個人識別の実際、災害時の歯科的個人識別における歯科衛生士の役割) ・国際保健の概要(医療全体)(国際保健の課題、持続可能な開発目標(SDGs:Sustainable Development Goals)、国際機関の種類と活動、国際協力と国際交流) ・国際歯科保健活動の現状(開発途上国への歯科保健医療協力、国際歯科保健の現状、国際歯科保健の推進)	77～82 83～87	日野出

教科書

歯科衛生学シリーズ 歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み1「保健生態学」(第1版)
全国歯科衛生士教育協議会監修、医歯薬出版 (Ⅱ編 歯・口腔の健康と予防 第2章 歯科疾患の疫学:P119～P125、第4章 う蝕の予防～ 第7章 その他の疾患の予防:P140～P211、Ⅲ編 健康に関わる地域の役割:P214～P337の範囲)

参考書

厚生の指標、国民衛生の動向(財団法人厚生統計協会編)、また、授業の進行に応じて参考書を紹介したり、プリントを配布する。

試験の受験資格

3分の2以上の出席

成績評価の方法

授業態度、出席状況を加味して、学期末試験成績を主に評価し合否を判定する。100点満点中60点以上を合格とする。

備考

事前に授業内容を予習し、積極的な姿勢で授業に臨むこと。

科目分野	専門分野		科目名	医療倫理
学年	1年次		学期	後 期
時間数	20 時間 （ 90 分 × 10 回 ）		単位数	1 単 位
授業形態	講義		使用場所	2F教室(1)
担当教員	弘田 克彦	大学で歯科医師として実務経験あり		

授業の目的(GIO)

新しい医の倫理の原則を学ぶとともに、歯科衛生士に求められる職業人としての心がまえや、インフォームド・コンセントに基づいた患者対応、医療現場で必要となるコミュニケーション技術やその基礎となる行動科学について学ぶ。また、医療倫理とともに生命倫理についても理解を深めることを目的とする。

授業の概要

医療の進歩と生命の尊厳との調和をどのようにとっていくか、そのことを医療の担い手となる歯科衛生士がよく理解するために、医療倫理や生命倫理のさまざまな問題を学修する。さらに、人を対象とした調査研究のための研究倫理についても学修する。また、国際歯科連盟（FDI)や国際歯科衛生士連盟（IFDH)の倫理規範を知る。

到達目標(SBOs)

1. 医療倫理とは何かについて述べることができる。
2. 患者中心の医療とは何かについて述べることができる。
3. 医療従事者の職業倫理、患者の権利、人を対象とする医学研究の倫理について概説できる。
4. バイオエシックスとは何かについて概説できる。
5. 医療技術の発達がもたらした倫理的問題について概説できる。
6. インフォームド・コンセントについて説明できる。
7. インフォームド・チョイスについて説明できる。
8. セカンド・オピニオンについて説明できる。
9. 倫理的要求としてのインフォームド・コンセントについて概説できる。
10. 研究と医療倫理とのかかわりについて説明できる。
11. 倫理的配慮が必要な研究について説明できる。
12. 生活行動と保健行動、QOLについて説明できる。
13. コンプライアンス行動、ノンコンプライアンス行動を説明できる。
14. 保健行動はどのようにして実行されるのか説明できる。
15. 歯科衛生士の守秘義務について説明できる。
16. 著作権法、著作権侵害について説明できる。
17. 歯科医師の職業倫理に関する規範を概説できる。
18. 歯科衛生士の職業倫理に関する規範を概説できる。
19. 「患者の権利に関するリスボン宣言」を概説できる。
20. 人を対象とする医学研究の倫理について概説できる。

授業計画

回	大項目	中項目	内容	到達目標	担当教員
1	医療倫理	伝統的医の倫理と新しい医の倫理	新しい医の倫理が求められるようになった理由を知る	1	弘田
	医の倫理	患者中心の医療、歯科医療に関する権利と義務	患者中心の医療とは何かについて知る	2	弘田
2	医療倫理に関する規範	医療従事者の倫理、患者の権利、医学研究	医療倫理に関する規範を知る	3	弘田
	バイオエシックス	生命倫理学およびそれにかかわる問題	生命倫理学、命の始まりと終わりに関する倫理	4	弘田
3	バイオエシックス	臓器移植、遺伝子医療、再生医療、臨床倫理学	医療技術の発達がもたらした倫理的問題	5	弘田
	インフォームド・コンセント	インフォームド・コンセント	インフォームド・コンセントとは何かについて知る	6	弘田
4	インフォームド・コンセント	インフォームド・チョイス	インフォームド・チョイスとは何かについて知る	7	弘田
	インフォームド・コンセント	セカンド・オピニオン	セカンド・オピニオンとは何かについて知る	8	弘田

5	インフォームド・コンセント	インフォームド・コンセントと患者中心の医療	倫理的要求としてのインフォームド・コンセント	9	弘田
	研究と医療倫理	研究と医療倫理の関わり	なぜ研究で医療倫理が必要なのか	10	弘田
6	研究と医療倫理	倫理的配慮が必要な研究	どのような研究が倫理的配慮を必要とするか	11	弘田
	生活行動と保健行動	健康と病気、QOL	健康と病気の基本概念の理解、QOLとは何か	12	弘田
7	患者の行動	コンプライアンス行動、自己抑制型行動特性	患者の行動を知る	13	弘田
	歯科医療従事者の行動	歯科医療の特徴、患者支援	保健行動はどのようにして実行されるのかを考える	14	弘田
8	歯科衛生士の倫理規範	患者の個人情報	患者の個人情報の取り扱い	15	弘田
	著作権	著作権侵害	著作権について知る	16	弘田
9	医療倫理に関連する規範と法令	医師・歯科医師の職業倫理	医師・歯科医師の職業倫理に関する宣言等、歯科医師の法的義務	17	弘田
	医療倫理に関連する規範と法令	歯科衛生士の職業倫理	歯科衛生士の職業倫理に関する規範、歯科衛生士の法的義務	18	弘田
10	医療倫理に関連する　規範と法令	患者の権利と義務	患者の権利に関する宣言等、患者の法的な権利と義務	19	弘田
	医療倫理に関連する規範と法令	人を対象とする医学的研究の倫理	「ニュルンベルク綱領」「ヘルシンキ宣言」	20	弘田

教科書

歯科医療倫理学　（歯科衛生学シリーズ） 医歯薬出版株式会社

参考資料

随時必要に応じて紹介する.

試験の受験資格

3分の2以上の出席

成績評価の方法

授業態度、出席状況を加味して、学期末試験成績を主に評価し合否を判定する。100点満点中60点以上を合格とする。

備考

質問があれば遠慮なく授業中にしてください。

科目分野	専門分野		科目名	保存修復学
学年	1年次		学期	後 期
時間数	28 時間 （ 90 分 × 14 回 ）		単位数	1 単 位
授業形態	講義		使用場所	2F教室(1)
担当教員	岡本梨沙	大学で歯科医師として実務経験あり		

授業の目的(GIO)

保存修復を対象とする歯の硬組織疾患を理解し、保存修復における診断方法や治療方法について理解する。

授業の概要

歯に生じる疾患の特徴を把握し、それらの疾患の診査方法を理解する。また、各種の治療・予防法について、その方法の意義・術式についての知識を習得する。さらに、欠損歯質の回復のための修復技法と修復材料についての基礎知識を習得する。

到達目標(SBOs)

1. 対象となる疾患を理解する。
2. 診査と診断の方法を理解する。
3. う蝕の病因を理解する。
4. 窩洞の分類及び診療の流れを理解する。
5. 修復に必要な前準備の目的と意義を理解する。
6. 修復材料と修復法の特徴を理解する。
7. 修復法の術式を理解する。
8. 各種セメントの特徴を理解する。
9. 漂白方法の種類や特徴を理解する。

授業計画

回	大項目	中項目	内容	到達目標	担当教員
1	保存修復学総論	保存療法の意義、対象となる疾患	保存療法の意義、硬組織疾患の種類、対象となる疾患	1	岡本
2	保存修復学総論	一般的な問診、診査項目	一般的な問診、診査項目	2	岡本
3	保存修復学総論	う蝕、窩洞	齲蝕の病因と病態および治療法、窩洞の分類	3、4	岡本
4	保存修復学総論	修復前準備	診療の流れ、前準備処置	4、5	岡本
5	保存修復法各論	直接法修復	コンポジットレジン修復の特徴	6	岡本
6	保存修復法各論	直接法修復	コンポジットレジン修復	7	岡本
7	保存修復法各論	直接法修復	グラスアイオノマーセメント修復	6、7	岡本
8	保存修復法各論	歯科用セメント	セメントの種類と特徴	8	岡本
9	保存修復法各論	歯科用セメント	合着用、接着用セメント	8	岡本
10	保存修復法各論	間接法修復	メタルインレー修復	6、7	岡本
11	保存修復法各論	間接法修復	メタルインレー修復	6、7	岡本
12	保存修復法各論	間接法修復	ポーセレンインレー修復 レジンインレー修復	6、7	岡本
13	保存修復法各論	その他の修復法	ラミネートベニア修復	6、7	岡本
14	保存修復法各論	漂白	漂白	9	岡本

教科書

歯科衛生学シリーズ 保存修復学・歯内療法学 全国歯科衛生士教育協議会 監修(医歯薬出版)

参考書

試験の受験資格
3分の2以上の出席

成績評価の方法
授業態度、出席状況を加味して、学期末試験成績を主に評価し合否を判定する。100点満点中60点以上を合格とする。

備考

科目分野	専門分野	科目名	歯内療法学
学年	1年次	学期	後 期
時間数	28 時間 （ 90 分 × 14 回 ）	単位数	1 単 位
授業形態	講義	使用場所	2F教室(1)
担当教員	木戸理恵、板東美香	大学病院で歯科医師としての実務経験あり	

授業の目的(GIO)

歯髄疾患および根尖歯周組織の疾患の発症原因と病態を理解するとともに，それらの治療法について学習する．また，外傷歯の治療法や歯内療法の偶発症についても学習を行う．

授業の概要

歯内療法学とは，う蝕， 外傷などの硬組織疾患，それに継続して生じる歯髄疾患および根尖歯周組織の疾患に対する予防，治療および研究する学問である．各疾患の原因，分類を把握し，疾患と治療法を関連づけて理解し考察できる能力を養う．

到達目標(SBOs)

1. 象牙質知覚過敏症の病因, 病態, 診断および治療法を説明できる.
2. 歯髄の構造と機能を説明できる.
3. 歯髄・根尖歯周組織疾患の病因と病態を説明できる.
4. 歯髄・根尖組織疾患の症状, 診断および治療法を説明できる.
5. 根管充填の目的, 時期及び方法を説明できる.
6. 歯髄・根尖歯周組織疾患の救急処置の種類と方法を説明できる.
7. 歯髄・根尖歯周組織疾患の治療時における偶発症について, 種類, 処置及び予防を説明できる.
8. 歯内外科処置について説明できる.
9. 乳歯と根未完成歯の歯髄炎の処置法の種類と適応症, 処置及び予防を説明できる.
10. 歯の外傷の症状と検査法, および診断と治療法を説明できる.
11. 歯内療法における歯科衛生士の役割について説明できる

授業計画

回	大項目	中項目	内容	到達目標	担当教員
1	歯内療法の概要	歯髄疾患	歯内療法の検査と診断、象牙質知覚過敏症、歯髄疾患の分類と症状	1,2,3,4	木戸
2	歯内療法の概要	根尖性歯周疾患	根尖性歯周炎の分類と症状、歯内−歯周病変	2,3,4	木戸
3	歯髄保存療法	歯髄鎮痛消炎療法	術式・歯髄鎮痛消炎薬	3,4,6	木戸
4	歯髄保存療法	覆髄法	間接覆髄法・直接覆髄法	3,4,6	木戸
5	歯髄除去療法	生活歯髄切断法	生活歯髄切断法の術式	3,4,6	木戸
6	歯髄除去療法	麻酔抜髄法	麻酔抜髄法の術式	2,3,4,5,6	木戸
7	根管治療	根管治療の術式	髄室開拡・根管長測定・拡大形成・根管消毒・仮封	2,4,5,6	板東
8	根管治療	根管充填・根未完成歯の根管処置	根管充填法・アペキソゲネシス・アペキシフィケーション	2,4,5,9	板東
9	外科的歯内療法	外科的歯内療法の分類・術式	外科的歯内療法の流れ・膿瘍切開	6,8	板東
10	外科的歯内療法	外科的歯内療法の術式	根尖掻爬・根尖切除・歯根切断	8	板東
11	外科的歯内療法	外科的歯内療法の術式	歯根分離・ヘミセクション・再植・移植	8	板東
12	歯の外傷	歯の外傷の分類と処置	破折性の外傷・脱臼性の外傷	10	板東
13	歯内療法における安全対策	偶発症への対応	偶発症の原因・予防・処置	7	板東

14	歯内治療における歯科衛生士の役割	歯内療法に使用する器材・薬剤の管理また患者への説明と指導	器具の管理・材料の管理・薬剤の管理	11	板東

教科書

歯科衛生学シリーズ 「保存修復学・歯内療法学」 医歯薬出版株式会社

参考書

・「エンドドンティクス」永末書店　・「世界基準の臨床歯内療法」医歯薬出版

試験の受験資格

3分の2以上の出席

成績評価の方法

授業態度、出席状況を加味して、学期末試験成績を主に評価し合否を判定する。100点満点中60点以上を合格とする。

備考

科目分野	選択必修科目	科目名	コミュニケーション学
学年	1年次	学期	後 期
時間数	16 時間 （90 分 × 8 回）	単位数	1 単 位
授業形態	講義 演習	使用場所	2F教室(1)
担当教員	福井 かおり	歯科診療所における臨床経験あり	

授業の目的(GIO)

コミュニケーションの基礎となる会話の基本を学び、論理的なコミュニケーションの手段である言語表現を効果的に実現する基礎能力を養う。具体的な場面での適切な表現方法を実際に考えることで、臨床現場や社会で必要となる様々なスキルを獲得することを目指す。

授業の概要

コミュニケーションの基礎となる会話について見識を備える。また、円滑な人間関係を構築する動作の基本を理解し、礼儀作法を身につける。

到達目標(SBOs)

1. 他者との関わりの中でコミュニケーションの在り方を学ぶことができる
2. 敬語、謙譲語、丁寧語の基本を習得できる
3. 場面に応じた話し方・聞き方ができる
4. 人に好感を与える表情、しぐさ、身だしなみができる
5. 正しい言葉づかいで会話できる
6. 適切な伝達法を選択できる
7. 適切な電話応対を実践できる
8. 一方通行と双方通行のコミュニケーションを説明できる
9. グループワークを実施できる
10. 環境設定の重要性を説明できる
11. 傾聴のスキルを身につける
12. 承認のスキルを身につける
13. 質問法のスキルを身につける

授業計画

回	大項目	中項目	内容	到達目標	担当教員
1	コミュニケーション	コミュニケーションとは	コミュニケーションの定義、種類 良好なコミュニケーションについて	1	福井
2	コミュニケーション	接遇とマナー	接遇の5原則	1	福井
3	コミュニケーション	接遇とマナー	正しい言葉づかい・電話対応	2	福井
4	コミュニケーション	接遇とマナー	身だしなみ・態度	3,4	福井
5	コミュニケーション①	接遇とマナー(演習)	正しい言葉づかい・電話対応	5―7	福井
6	コミュニケーション②	医療現場におけるコミュニケーション	医療の場におけるコミュニケーション とその障害について	8	福井
7	コミュニケーション③	医療現場におけるコミュニケーション(グループワーク)	言語的コミュニケーション 非言語的コミュニケーション	9	福井
8	コミュニケーション④	医療現場におけるコミュニケーション	環境の設定、質問法、傾聴、 共感的態度、承認	10―13	福井

教科書

適時、プリントを配布する。

参考書

授業中に必要な参考書を紹介する。

試験の受験資格

3分の2以上の出席

成績評価の方法

授業態度、出席状況を加味して、授業中の課題を主に評価し,100点満点中60点以上を合格とする。

備考